

令和 6 年度 第 2 回 静岡市健康福祉審議会健康づくり専門分科会 会議録

- 1 日 時 令和 7 年 1 月 30 日（木）19:00～20:35
- 2 場 所 静岡庁舎新館低層棟 3 階 茶木魚及び ZOOM を利用したリモート会議形式
- 3 参加者 委 員 会場出席（7 名）森本分科会長、中村委員、齊藤委員、森下委員、
豊島委員、渡邊委員、平野委員
リモート（5 名）谷口委員、吉川委員、長田委員、
鈴鹿委員、増田委員

事 務 局 保健福祉長寿局次長兼健康福祉部長 萩原
健康福祉部 参与 山下
健康づくり推進課長 川口
総務係長 大勝
健診係長 竹田
保健指導係 佐藤、望月、松原
関係課等 葵区役所健康支援課 課長 長田
駿河区役所健康支援課 課長 松野
清水区役所健康支援課 課長 芝原

4 傍聴者 なし

5 議 題

（1）健康爛漫計画（第 3 次）重点的取組事項への取り組み状況について

- ①生活習慣病予防・重症化予防
- ②誰もが健康になれる環境づくり
- ③関係機関との連携と協働

（2）報告事項

保健福祉センター再編及びこども家庭センターの機能強化について

6 会議内容

事務局 開会

（司会）

【議題】

事務局 それでは、会議を進めてまいります。

（司会） 本日は委員 15 名のうち 12 名にご出席をいただいておりますので、健康福祉審議会条例施行規則第 3 条第 2 項に規定する会議の開催要件を満たしております。傍聴人はございません。会議録作成のため、本日の議事内容を録音させていただきますのでご了承ください。

進行につきましては、同条例施行規則第 2 条第 4 項会長が議長となることが規定されておりますので、森本会長をお願いいたします。

森本議長 本日は健康爛漫計画の重点取組事項の取り組み状況について審議します。

①生活習慣予防・重症予防 について事務局から報告をお願いします。

事務局 資料1（糖尿病治療中断者への保健指導の取り組みについての報告）

森本議長 ただいまの説明につきまして、質問や意見のある方はお願いします。
豊島さんお願いします。

豊島委員 受診勧奨訪問指導に1名で回ったとの事で、感謝したいと思います。
自覚症状がない、経済的問題がある人等が、専門職の勧めで受診を再開できる事が一番の近道だと思います。半数の方が会えず、受診勧奨の手紙を出しても病院に行かないのは、特定健診を受けない人たちと同じような“分かっている”という意識だと思います。なるべく、会って説得していくしかないと思います。

森本議長 ありがとうございます。長田さんお願いいたします。

長田委員 現場でも「自覚症状が無いのに治療をしなければいけないのか」という声が多く、糖尿病だけでなく、高血圧や脂質異常症などでも、自覚症状がないと治療を続けるのは難しい事が多いです。
特に糖尿病の場合は、薬が高いため、経済的な問題にも繋がってくると思います。ジェネリック医薬品がある薬については安くできるので、保健師の訪問を通して薬局でできることを伝えていただけるといいかと思います。

森本議長 吉川先生、医師の立場からコメントをいただけますか。

吉川委員 まず、特定健診の受診率は何%ぐらいなのでしょう。

事務局 国民健康保険の昨年度の受診率は、うろ覚えの速報値で申し訳ありませんが34%程度です。

吉川委員 受診状況等調査の対応にかかった時間や人員など、どれぐらい大変だったか教えてください。

事務局 1～2名の保健師で対応しました。1人の対象者に必ず1回は訪問し、状況によって複数回訪問している方もいます。会えなかった方には、電話接触も試みます。およそ8月から12月ぐらいにかけて実施しました。

吉川委員 手間暇の定量化はすごく難しいですが、かなりの労力だったと思います。特定健診を受診するという形で、市民の人が医師にコンタクトを取ってもらうのが一番効率良く、有効かと思いますが、そこが難しいところで、接点すら持てない人たちが本当困りますね。

森本議長 吉川先生ありがとうございます。
静岡市には保健師が何人くらいいるのでしょうか。

事務局 庁内の保健師は131名です。

森本議長 静岡市はすごく広いので、1人で市役所から出向くのは大変です。保健福祉センターが各地にあり、保健師もいると思うので、そこから訪問するのはいかがでし

ようか。

事務局 今回直接ご本人とお会いできた中で、治療状況だけでなく、家族の介護状況や経済面など、どんな困りごとがあるのかを把握することができ、それを基に、関係する支援先と一緒にご本人に関わっていく動きを取ることができました。本来であれば、一番地域に密着している保健福祉センターでできるのが何よりだと思っていますので、今後協力できればと思います。

森本議長 大変だと思うので、ぜひ協力して、もっと細かいケアをよろしくお願いします。中村さん、ご意見いただけますでしょうか。

中村委員 病院に通っている方はそれなりの手当を受けていると思いますが、治療にお金がかかると、行ける方と行けない方がいると思いますので、隠れている糖尿病の方が多いのではないかと思います。その辺、市の方で何か対策はありますか。

事務局 処方薬の経済的負担緩和について、薬局やかかりつけ医に相談を促すのが一つです。その他、高額医療費の助成制度や、必ずしも要件を満たす方ばかりではないですが、無料（または低額）で診療を受けられる医療機関が市内にわずかにあるので、そういったところと相談をしながら支援を行っています。

森本議長 看護協会の鈴鹿さんはいかがでしょう。

鈴鹿委員 糖尿病で治療されてない方は症状がない方が多いという報告を受け、すぐの解決策ではないですが、診断されてすぐの時に、将来どのような影響があるかを、ご本人がきちんと理解できるようにするしかないのかな、と現場では感じます。

森本議長 ありがとうございます。

②誰もが健康になれる環境づくり について事務局から説明をお願いします。

事務局 **資料2**（第2回健康爛漫計画推進作業部会の報告）

森本議長 ただいまの説明についてご意見があればお願いします。

商工会議所の増田さん、いかがでしょうか。

増田委員 子供の頃からの食育を行うのは非常に有効だと思います。私自身も大人になって健康診断を受けた事を期に、初めてカロリーや塩分、生活習慣を気にするようになりました。中学・高校生で運動をしている子たちは特に、体を作るためご飯をたくさん食べますが、カロリーは気にしても、塩分はあまり気にしない事が多いのではないかと思います。しょっぱいものをおかずにして、たくさんご飯を食べ、そのまま大人になり、気づいたときにはその習慣をやめられないと悲しいので、中学生とか高校生の授業等で適切な食塩の量等を知る事が、大人になって無理なく適正な量で抑えるきっかけになるのではと思いました。

また、日立の健康保険組合で行っている『はらすまダイエット』は、90日で無理なく5%体重を落とすために、100キロカロリー相当の食事内容や運動量が記載されたカードから、今日はこれをやろうと選んで取り組みます。情報発信とし

ては非常にわかりやすいと思います。

森本議長

ありがとうございます。

食事の話題という事で、渡邊さんからのご意見いただければと思います。

渡邊委員

私は市民向けの教室に出向いていますが、高齢者の教室では血糖値が高い方がとても多くいます。減塩教室では塩分を抑えたメニューを提供していますが、素材を生かせば塩 2g でも美味しくいただけます。糖尿病の方へ訪問していると聞き、病気になる前の予防が大切だと思います。野菜をたくさん食べる事が減塩にもなるという話をよくしますが、自分がどのくらい食べているのか、なかなかわからない事が多いです。3～4年位前からベジチェック（センサーに手のひらを当てると、皮膚のカロテノイド量を測定し、野菜摂取レベルと野菜摂取量の推定値を表示する機器）が出ているので、チェックを通して気づく事も大切だと思います。静岡市では機器を持っていませんが、できることはぜひやっていただきたいと思っています。

もう一つ、近年は子ども向けの教室の依頼が多くなり、去年は17教室くらい行って、約900名の子供たちに『早寝・早起き・朝ごはん』を指導しています。なぜ朝ご飯を食べなければいけないかを伝えることで、子供たちが『夜ふかししないで朝ご飯をしっかりと食べます』『寝る2時間前はスマホを見るのをやめます』など、言ってくれます。朝は何を食べているのか聞くと、ゼリー飲料だけ、ジュースだけという子もいて、それでも朝ご飯を食べたことになっていますが、実際は内容が伴っていません。ぜひそういう指導もお願いしたいと思います。

森本議長

ありがとうございます。

静岡市には栄養士は何人くらいいるのでしょうか。

事務局

行政に関わっている栄養士は20から30人ぐらいだと思います。各こども園や学校の給食センターにも配置されているので、現場の栄養士も併せた総人数となると、すぐに回答できませんが、もう少し多くなります。

森本議長

ご提案いただいたように野菜の摂取をすすめる事、朝食を食べる事等は爛漫計画にも入っているかと思いますので、ぜひそういう指導もしていただきたいと思います。豊島さんお願いします。

豊島委員

小さい頃から習慣づけるという話が出ていますが、子供だけでは自分で食事を取れないので、大人に妊婦の時から栄養の大切さなどを話すのが一番だと思います。グループワークのまとめを見ると、若い人たちのアイデアがたくさんありますね。可能かどうかではなく、考えることがすごくいいことだと思っています。

森本議長

ありがとうございました。

③関係機関との連携と協働 について、事務局から説明をお願いします。

事務局

資料3（関係機関と連携した取り組みの報告）

森本議長

ただいまの説明について、谷口さんいかがでしょうか。

谷口委員

よく「官民連携」「協働」と言われますが、いろいろな分野で活動していると、なかなか難しいと感じます。

目で見てわかるのはとても大事で、県立大学と連携した野菜摂取量測定会はすごくいい取り組みだと思いました。以前、私が男性の料理教室を担当したときに、1日分の食事を作って、実際の量を示したら、みんな食べ過ぎていたなどの気づきがあって、目で見てみないわからないものだ実感しました。食材のモデル等、見てわかるものがあったもいいのではないかと思います。

また、自分が住んでいる地域の地区社協で認知症研修会があり、認知症疾患医療センターの小尾先生が講演の中で、『生活習慣病の集大成が認知症』と話していて、なかなか衝撃的な言葉だと思いました。参加者は自治会の役員が多く、高齢男性も多かったのですが、自治会の強制的な研修とはいえ、認知症に対しての関心は高いのではないかと思います。『生活習慣病を予防しないと、認知症になる確率が高い』のような形で周知すると、もう少し危機感を持つのではないかなと思います。高齢者福祉や介護分野などの連携もあるかと思っています。

森本議長

ありがとうございました。

静岡市校長会の斎藤さんをお願いします。

齊藤委員

保護者が非正規だったり、夜勤であったり、生きるのに必死という家庭が、徐々に増えているような気がします。例えば、とても運動能力が高い子がいても、家庭環境によってはスポーツ少年団には入れないような現状もあり、できるだけ近場でお金をかけずに子どもが運動に親しめると良いと思います。

また、学校では、栄養士が栄養教育を行っているため“知識はあるけど、ご飯がない”と言う子たちもいて、学校で用意して食べさせている事もあります。

この現状の中で、できるだけ保護者にも届く支援が必要だと思います。学校でスクールソーシャルワーカーが長期的に関わり、少しずつ保護者の気持ちをほぐしながら福祉的なアプローチも含め、環境を整えています。

私としては、できるだけそういう子どもたちも救えるような取り組みをしていただけると大変嬉しいなと思っております。

森本議長

ぜひ、参考に取り組んでいただきたいと思います。

私立保育園長会の森下さん、お願いします。

森下委員

当園には、今だいたい130人園児がいますが、朝食を食べてこない家庭が大体1割ぐらいあり、特に幼児になると、お昼まで持たない子がいます。0～1歳の離乳食の頃を含め、栄養面や健康管理について、親と話していても知識不足がかなり大きいです。子どもたちに食育の機会があっても、親には届きませんので、

可能であれば、目で見えてわかる冊子等を、多言語で提供してもらう事を検討していただければと思います。

森本議長 ありがとうございます。

労働基準監督署の平野さんからもお願いします。

平野委員 健康づくり推進事業所宣言数や健康経営優良法人認定数が増え、着実に事業者の意識が高まり、取り組みに参加いただいていると感じました。労働安全衛生法に基づく健康診断の実施と、労働者の皆さんに受診義務がある事は我々の方で話しています。さらに、健康診断の結果が悪い方に対して、必要に応じて、例えば残業時間を減らす、深夜勤務を無くす、就業制限をかける等の対応を勧めています。これらは法律に基づく実施ですが、予防的な観点多いと感じています。小規模事業者には健康診断ができていないところもありますので、幅広く隅々まで指導しなければと改めて感じました。

我々も事業者を集めたいろいろな説明会を開催しています。小規模事業者に対しても参加の声かけをしますが、忙しくてどうしても参加できないという事が多いです。網をかけるほど、関心を持って参加いただいているところもあり、多く参加していただきたいときは、多くの対象に声をかけるのが重要だと思います。

また、資料 1 でご報告いただいた中に、仕事が忙しくて治療中断される方もいて、健康診断などの情報だけでなく、治療と仕事の両立に関する支援にもしっかりと力を入れる必要を感じました。事業者の協力なくしてはできないことだと思いますので、連携という観点からも必要なことだと感じました。

資料 2 の中では、事業所対抗の取り組みもいいアイデアだと感じました。連携に繋がるという意味で、実施していただければありがたいと思います。

森本議長 貴重なご意見ありがとうございます。

(2) 報告事項に移ります。保健福祉センター再編及びこども家庭センターの機能強化について、事務局から報告をお願いいたします。

事務局 資料 4 (パブリックコメントの実施について)

森本議長 ただいまの報告について、豊島さんお願いします。

豊島委員 子ども家庭センターの機能強化という事で、保健福祉センターを集約して、相談にはのるけれども、来て欲しいという言い方をされています。私は由比にいますが、高齢者もいて、交通機関がないところもあって、由比・蒲原の保健センターは、ある程度機能的に残して欲しいと常に思っています。今日の話でも、退職後の人の健康管理等が話題に出た中で、相談事業がすごく大事だと思ったので、そういう所は区役所から出向いていただくと、また少し違ってくるかと思います。3ヶ所にまとめていく意味もわかりますし、子供たちの健康を守りたい気持ちも

わかりますが、住民は乳幼児から高齢者までいることを踏まえて、もう少し手厚いことができたらいいなというのが私の希望です。そういう意見があったら、耳をしっかりと傾けて進めていただき、少し時間をかけて住民の理解を求めながら移行して頂きたいと思います。保健センター、保健師の重要性を日々感じておりますので、ぜひお願いします。

森本議長 貴重なご意見ありがとうございます。残りの6ヶ所は閉鎖されるという事で、土地等は何かに使われるのでしょうか。

事務局 後利用については、違う部署が担当になりますが、まだ決まっておりません。少し補足をしますと、再編はこども家庭センターを作るためだけのものではなく、保健福祉センターでやっていた母子保健の部分が、こども家庭センターの役割と重なるということです。保健福祉センターは全てのライフステージの方たちが対象という事には変わりはありません。特定健診未受診の方への対応や、高齢者への支援や地域包括支援センターとの連携も、今後充実していかなければいけないと思っております。

森本議長 ありがとうございます。渡邊さんお願いいたします。

渡邊委員 豊島さんの意見と、同じようなことを思いました。私は民生委員もやっていて、定例会に保健師が必ず顔を出してくれるので、いろいろな相談に対応してもらっていますが、そういう、きめの細かいことができなくなるのではないかと危惧しています。幼児健診なども、遠くなると行くのが大変になるのではないかと思います。健診受診率も低くなるのではと思いますが、いかがでしょうか。

事務局 先日、保健福祉センターの健診に来ている方たちにアンケートをとったところ、自家用車で来られている方が100%近くでした。

遠くなってしまうと行くのが大変になるという事については、私達も同じ気持ちであります。

谷口委員 前身の子育て世代包括支援センター（以下、子育て包括）ができて、それが一旦、各区役所の子育て支援課に集約されて、今回保健福祉センターに戻るの、その方が良かったという事でしょうか。

私は仕事で女性の相談への対応が多く、子どもの事を相談したい方には区役所のこども家庭センターへの相談を勧めますが、紹介先も変わるのでは、間違えて前のところを紹介してしまった事もあります。

保健師に子どもの成長や発達を見てもらいながら、虐待のリスクなども見ていくという事で、どちらの役目の方が強くて結局戻すことになったのか、前向きな統廃合ならいいかと思いますが、そのあたりはどうでしょうか。

事務局 子育て包括ができたときには、多くの自治体が保健センターと2枚看板でやっていたのですが、静岡市は子育て包括だけが独立したような形になっていました。その後も変遷はありますが、今回こども家庭センターができたことによっ

て、旧子育て包括の役割は母子保健の方に集約されています。

母子保健では、母子手帳交付が支援の入り口になっていて、交付時に“実は生活に困っている”“シングルマザーである”などの課題を把握する事があります。網目を張って、こぼれ落ちないように必要な人を児童福祉に繋げていく、というところがスムーズにできるよう、保健福祉センターの母子保健部分と児童福祉の連携を密にして、こども家庭センターの看板を二つで背負うというような流れになっています。今の改正児童福祉法で一体化して進めるように、となったため、このような流れとなっています。

谷口委員 良く分かりました。とても大切な機能だと思うので、よろしくお願いします。
森本議長 それでは、委員から出された意見等につきましては、今後の計画の推進に活かしていただきたいと思います。

以上で本日の議事は終了いたしましたので進行を司会者にお返しします。

事務局 森本会長、委員の皆様、長時間にわたるご審議ありがとうございました。

(司会) 最後に、保健福祉長寿局次長兼健康福祉部長萩原よりご挨拶いたします。

局次長 保健福祉長寿局次長の萩原です。長時間のご審議ありがとうございました。

委員の皆様方には、令和 5 年 4 月からご就任いただき、任期中の専門分科会は今回が最後となります。この間、皆様方には、健康爛漫計画（第 3 次）の策定や様々な健康づくりの取り組みに関して大変多くのご意見をいただき、誠にありがとうございました。

様々な分野の委員の皆様から様々なお立場、様々な視点でご意見等をいただくと、行政の方ではなかなか思い付かない、気が付かないような視点のご意見をいただきます。そういったことがこれからの政策に繋がられるということで非常にありがたいと感じたところです。委員の皆様の任期はこの 3 月で満了となりますが、今後も地域の関係機関の一員として、また市民の 1 人として、本市の健康づくり施策の推進について、ご指導ご協力を賜りますようお願いいたします。

事務局 任期満了に伴う新しい委員の推薦につきましては、各団体の方に順次文書を送付しますので、ご対応をお願いします。

なお、健康づくり専門分科会は、来年度も 2 回を予定しています。日程は決定次第、新しい委員にお知らせする予定です。

以上をもちまして、令和 6 年度第 2 回静岡市健康福祉審議会健康づくり専門分科会を閉会します。